

The background features a large, stylized green 'F' symbol on the right side. To its left is a circular, lens-like structure with a rainbow-like color gradient from orange to blue. The entire scene is set against a background of overlapping, semi-transparent geometric shapes in shades of green and blue, creating a complex, layered effect.

ColdFusion バージョンアップ Tips 2015

ver.2.1.2

2015/6

(資料変更履歴)

- ver.2.0.0 (2015/5)
 - 2015.5 マイグレーションセミナー
- ver.2.1.0
 - 第1回マイグレーションセミナーの質問内容を追記した全体資料化
 - 5/22のセミナーQ&Aの内容を追記
- ver.2.1.1 (2015/6)
 - 誤字の修正
 - 一部資料の順番を変更
- ver.2.1.2 (2015/6)
 - ページ追加：プロフィール機能 (P.12-13)

セミナーの開催にあたって（アジェンダ）

ColdFusion MX6.1 以降はエディション構成や機能が継承され、基本的には互換性があるとされていますが、下記の影響や変化には考慮が必要です

■ColdFusion自身 が進化し続けていく過程で

1. セキュリティ脅威に対応する **機能追加** や **制限強化** の影響
2. 最新のWebトレンドに対応する新機能や **機能強化** の影響
3. **同梱ライブラリ・ドライバ** の新バージョンへの切り替え
4. 使われなくなった機能の **非推奨** や **削除**
5. 内部エンジンの **Tomcatへの変更**や**アップデート機能**、**Java VM**

■運用する 環境面 でも

- 「OSやWebサーバー」のサポート終了に伴い、OSの変更や新バージョンへ移行
- H/W老朽化に伴うリプレースで、32bit OS から「64bit OS」への変更
- 「外部リソース（DBやバックエンド）」のバージョンアップや変更

備考：MX6.1より以前のバージョン (マイグレーション作業が必要)

- ~ColdFusion 5

- 内部エンジンがC++ベース
 - 多くのCFタグや関数は11と同じ記述で動くが、内部処理は全く異なる
- 日本語版専用としてローカライズ・リリース
 - 日本語環境で動かす事を前提に作られ、多言語対応は行われていない
- データベース処理
 - ODBCやネイティブドライバを利用したDBクライアント経由での処理

- ColdFusion MX (6.0)

- ページの初回リクエストに30秒以上待たされた
 - Javaバイトコードへの変換の際に中間コードを生成していて時間が掛った
- 内部エンジンをJavaに置き換えた最初のバージョン
 - 日本語ロケールを考慮しない動き→プログラムによる回避が必要だった
 - ファーストリリースとして多くの不具合→MX6.1で多くが修正された
- Java VM が 1.3 ベース
 - 1.4以降は文字エンコーディングの解釈 (Shift_JIS) が異なる影響等

(参考) ColdFusionカフェテリア資料

http://forum.samuraiz.co.jp/img/CF9_migration_documents.pdf

1 - a.

※画面右上のロゴで該当バージョンを表示

ColdFusion 11



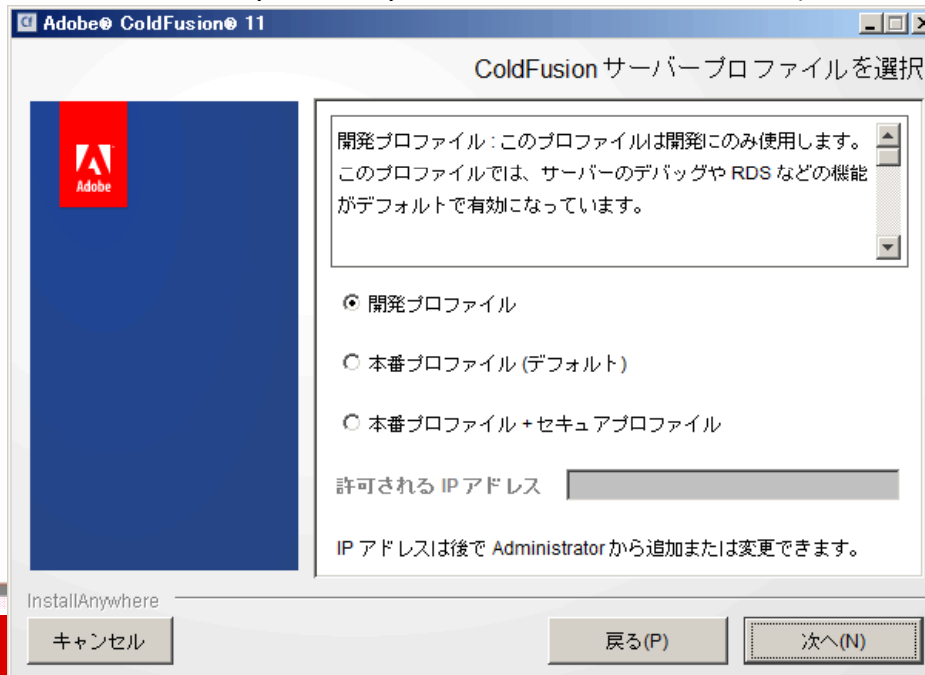
ColdFusion 10



プロファイル機能 (機能追加)

プロファイル機能とは？

- ColdFusion 10 以降に追加され、インストール時に「セキュリティを高めた本番環境向けの設定」 or 「（従来の）開発環境向けの設定」を選択する機能
 - ColdFusion Administrator のデフォルト値が変更されたり、設定の [有効] [無効] が切り替わったりするため、前バージョンと設定が違ったり、運用環境と本番環境で設定が異なってハマる可能性がある
 - (CF11) Administratorの「セキュアプロファイル」からも変更できる



セキュリティ > セキュアプロファイル

セキュアプロファイルを有効にする

セキュアプロファイル設定は 1 つの推奨事項にすぎません。要件に応じて、示します。

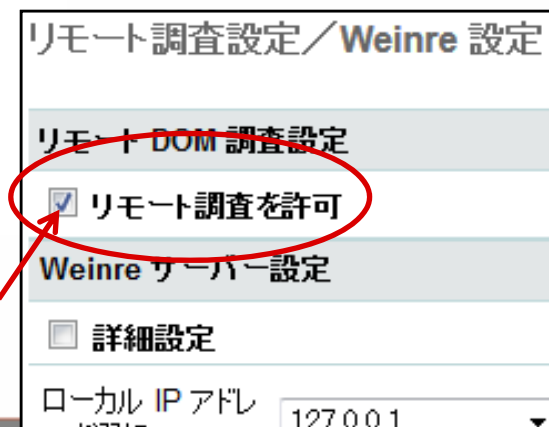
セキュアプロファイル設定の要約	
設定名	現在の値
Robust 例外情報の有効化	true
セッション Cookie のタイムアウト (分)	15768000
CFSTAT の有効化	true
RDS の有効化	true
ColdFusion Java 内部コンポーネントへのアクセスの無効化	false
サイトエラーハンドラー	
cftoken 用の UUID の使用	true

はまらP① ブラウザの戻るを行うと 「Webページの有効期限切れ」になる



- **開発プロファイル**を選択してインストールすると、HTTPレスポンスヘッダに「Cache-Control:no-cache …」やExpires、Pragmaが追加される
 - ブラウザの[戻る]や JavaScriptの[history.back()]で前画面に戻っても「Webページの有効期限切れ」となる
 - Administratorの「リモート DOM 調査設定」 ([デバッグとロギング]-[リモート調査設定]) 画面の「リモート調査を許可」のチェックを外す

▼ Response Headers view source
Cache-Control: no-cache, no-store, must-revalidate, max-age=0
Content-Length: 21930
Content-Type: text/html;charset=UTF-8
Date: Wed, 07 Jan 2015 09:28:13 GMT
Expires: Thu, 01 Jan 1970 00:00:00 GMT
Pragma: no-cache
Server: Microsoft-IIS/7.5
X-Powered-By: ASP.NET



チェックを外す

はまらP② エラー時の表示画面



- **本番プロファイル**を選択してインストール（または CF11で「セキュアプロファイル」を[有効]に）すると、ColdFusionの従来のエラーメッセージではなく下記のような画面になる
 - Administratorの「エラーハンドラ」（[サーバーの設定]-[設定]）に指定されているページを削除（空欄に）する



はまらP③ セッション Cookie の扱いの変更



■ ColdFusion 10以降 ColdFusion Administrator でセッション Cookie の設定が可能

- **本番プロファイル**を選択してインストール（またはCF11でセキュアプロファイルを[有効]にする）、と「ColdFusionのタグ/関数を使用して～」がデフォルトで有効になり、従来のCFCookieタグ等による強制CFID, CFTOKENの上書き処理はエラーとなる

セッション Cookie 設定

次の ColdFusion セッション Cookie のプロパティを、サーバーレベルとアプリケーションレベルの両方で設定できます。ここでは、HTTPOnly を確認してください。暗号化された (HTTPS) 接続でのみ Cookie を使用できるようにするには、セキュア Cookie を有効にしてください。

Cookie タイムアウト 分

HTTPOnly

セキュア Cookie

ColdFusion のタグ / 関数を使用して ColdFusion の内部 Cookie を更新できないようにします。

次の情報は、Web サイト 開発者のデバッグリクエストを処理する際に、エラーが発生したときに表示されます。

Cookie の設定に失敗しました。

レスポンスに指定した Cookie を ColdFusion で追加できません。これは、ColdFusion のセッション Cookie または認証 Cookie のいずれかを設定するために、この Cookie を使用したためと考えられます。この作業には、アプリケーションまたはサーバーレベルの設定を使用してください。

エラーの発生位置 **C:/ColdFusion11/cfusion/wwwroot/sup/sessioncookie/Application.cfm: line 6**

```
4 : set them manually as per-session cookies --->
5 : <CFLOCK SCOPE="SESSION" TYPE="READONLY" TIMEOUT="5">
6 : <CFCOOKIE NAME="CFID" VALUE="#SESSION.CFID#">
7 : <CFCOOKIE NAME="CFTOKEN" VALUE="#SESSION.CFTOKEN#">
8 : </CFLOCK>
```

はまらP④ cflocationタグ addTokenのデフォルト値



セッション管理を有効(Session変数を使用する時)、cflocation
の addToken属性のデフォルト値が11から変更

例 : <cflocation url="second.cfm">

- ~ColdFusion10

- addToken 属性のデフォルトは true (yes)
http://127.0.0.1:8500/sup/CFMigration2015/sub/second.cfm?
CFID=2605&CFTOKEN=a5ca0a93ddb3f664-8E874CDA-9642-
0B30-F70F42C23500B048

- ColdFusion11

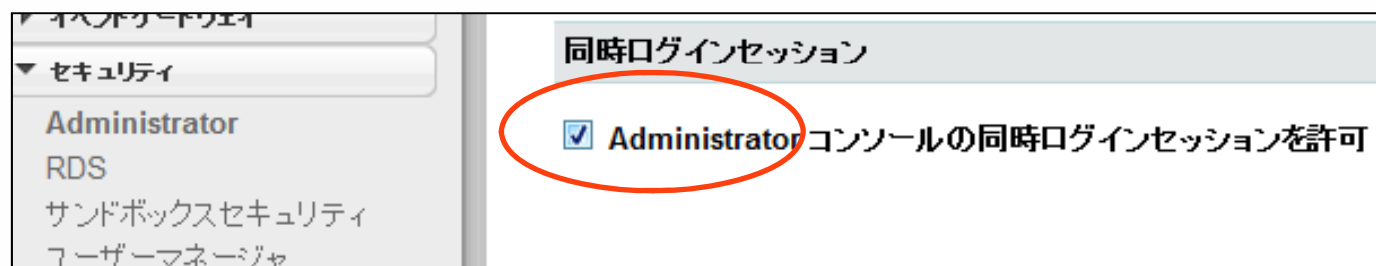
- 「本番プロファイル」 (セキュアプロファイル「有効」) 時は false (no)
http://127.0.0.1:8500/sup/CFMigration2015/sub/second.cfm
- 「開発プロファイル」 (セキュアプロファイルが無効) な時は true (yes)
※上の「~ColdFusion10 まで…」と同じ内容

小はまらP⑤ Administrator への 同じユーザーでの複数ログイン動作



■ 既にAdministratorへログインしている状態で、異なるPC (別ブラウザ) から同じユーザーでログインした場合

- ColdFusion MX ~ CF9
 - 同じユーザー名での複数同時ログイン可
- ColdFusion 10
 - 同じユーザー名での複数同時ログイン不可
- ColdFusion 11
 - 本番プロファイル (または「セキュアプロファイル」を[有効]にした場合) 度複数同時ログイン不可
 - ColdFusion Administratorの「同時ログインセッション」で変更可能



データソース設定 使用可能なSQL



- **本番プロファイル**を選択してインストール（または CF11で「セキュアプロファイル」を[有効]に）すると、ColdFusion Administrator で新規にデータソースを登録する際、「使用可能なSQL」のデフォルト値がCRUDのみとなる

使用可能な SQL	<input checked="" type="checkbox"/> SELECT	<input type="checkbox"/> CREATE	<input type="checkbox"/> GRANT
	<input checked="" type="checkbox"/> INSERT	<input type="checkbox"/> DROP	<input type="checkbox"/> REVOKE
	<input checked="" type="checkbox"/> UPDATE	<input type="checkbox"/> ALTER	<input type="checkbox"/> STORED PROCEDURES
	<input checked="" type="checkbox"/> DELETE		

- プログラムから実行するSQLに、CREATE やストアドプロシージャを使用している場合はチェックが入っていないとエラーになるため注意する

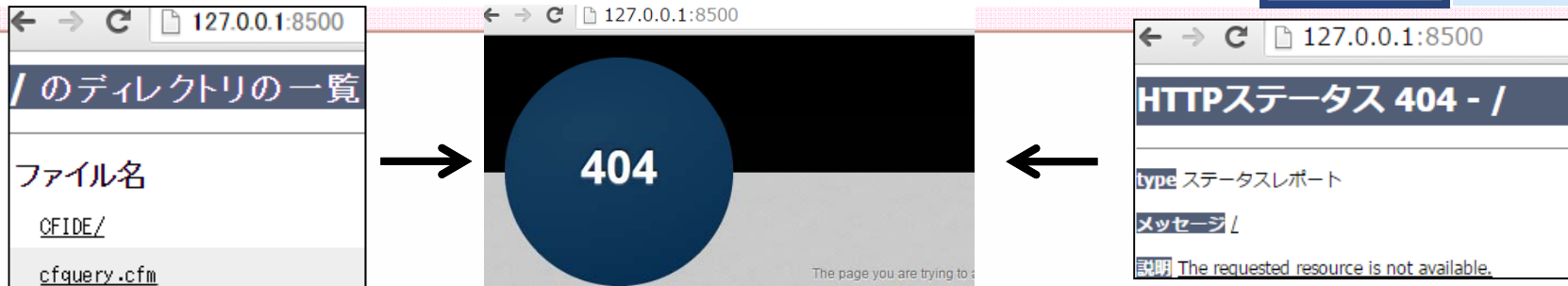
次の情報は、Web サイト開発者のデバッグに役立ちます。

リクエストを処理する際に、エラーが発生しました。

データベースクエリーを実行する際のエラーです。

ストアドプロシージャの実行はできません。

その他：本番プロファイルを選択してインストールした際の設定



- その他、**本番プロファイル**を選択してインストールすると
 - 同梱Webサーバーの「ディレクトリの一覧表示」は無効（404）
 - 例外発生時のエラー画面にエラーメッセージを表示しない

■ [cf_root]/インスタンス(cfusion)/runtime/conf/web.xml

<init-param>

<!-- secure profile **disable** start -->

<param-name>listings</param-name>

<param-value>>true</param-value>

<!-- secure profile **disable** end -->

<!-- secure profile **enable** start

<param-name>listings</param-name>

<param-value>>false</param-value>

secure profile **enable** end -->

</init-param>

←ディレクトリー一覧の表示が有効な状態。

※コメントの範囲を見ると、下のブロックの<param-XXX>がコメントアウトされている

プロフィール機能まとめ

- デフォルト設定ではセキュリティ面から本番運用では変えた方がよいものを、プロフィール機能によってメーカーが推奨する設定に変えてくれる機能はとても便利
- ただし、プロフィールの選択（切り替え）によってどの設定に変更があるかを知っておかないと、思わぬ影響で悩まされる場合がある点には注意
 - はまらPの内容に加えて、ColdFusionのオンラインマニュアルに記載されている設定を理解して有効に活用していこう
 - セキュアプロフィールの有効化によって影響を受ける Administrator の設定
 - <https://wikidocs.adobe.com/wiki/display/coldfusionjp/Administering+ColdFusion+Security>

1 - b.

制限の強化

制限の強化によるマイグレーションの影響

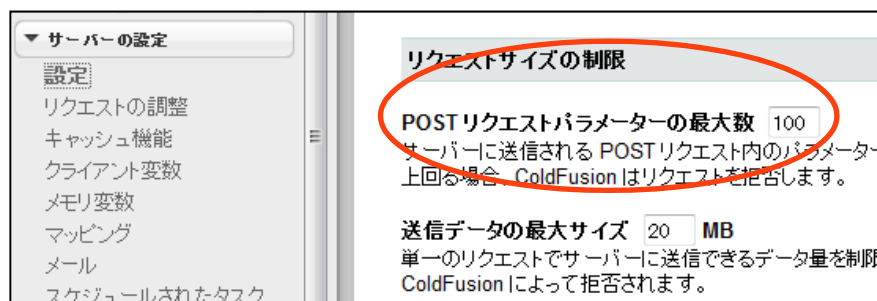
- 当時は意識されていなかった機能に対し、主にセキュリティ面のリスクに対応するために制限が強化されたもの
- 先行して累積ホットフィックスやアップデートで制限が追加され、後のバージョンで正式機能として Administrator などで設定が調整できるようになったものが多い
 - 主に 2011年～2013年ごろに確認された脆弱性に対し、ColdFusion 9 や 10 で制限の強化が行われた
- **最新セキュリティパッチを当てていない ColdFusion 9 やそれよりも前のバージョンからのバージョンアップでは、制限の強化によって、これまでと異なる動きやエラーに遭遇する事があるため、注意する**

～2013年セミナーでも紹介～

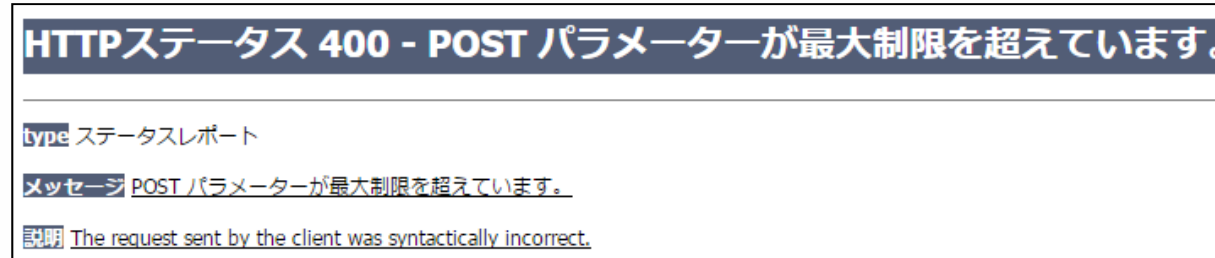
フォーム入力数の上限設定



- ColdFusion 9のセキュリティアップデートより制限が追加
- 10以降は ColdFusion Administratorに項目が追加された
 - デフォルトは 100



- 指定した数を超えるとエラーとなる



- 指定可能な最大数の上限は特に設けられていない。
 - 大きな数値を指定する事も可能だが、大量のPOSTパラメーターが送付されてサーバーの負荷が上昇するのを防ぐのが目的の設定なので、運用中のシステムでの入力欄の数から適切な最大数を指定することが望ましい

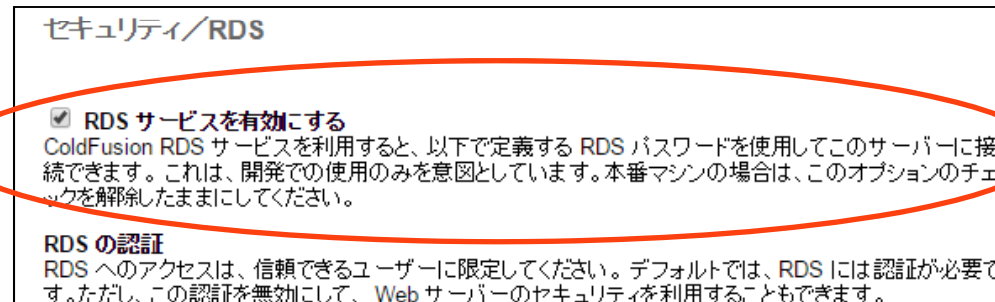
～2013年セミナーでも紹介～

Administratorに後から制限を追加した機能



- どちらも ColdFusion 9 のセキュリティアップデートより追加された制限。10以降は標準機能として実装された

- [セキュリティ] - [RDS] 画面



- 参考サイト

- <http://cfassociates.samuraiz.co.jp/index.cfm/faq/coldfusion9/rdonoff/>

- スケジュールタスク・プローブの出力内容のファイル書き出し
結果のファイル書き出し時の拡張子に制限が入る

- 参考サイト

- ファイル名の無効な拡張子です。有効な拡張子は次のとおりです :log.txt

- <http://cfassociates.samuraiz.co.jp/index.cfm/faq/cftech/output-scheduledtask-probe/>

～2013年セミナーでも紹介～

セッションCookieにHTTPOnly



- ColdFusion 9.0.1のセキュリティアップデートよりセッション Cookie に HTTPOnlyが付加できるようになった
- ColdFusion 10以降は、デフォルト設定で、セッション Cookieに HTTPOnly を付けるようになった
 - HTTPOnly は JavaScriptを利用したブラウザに対するCookieの漏えい (document.cookie 等) を防ぐパラメーターとして有効である
- 事情等によってセッションCookieに HTTPOnly を付けたくない場合は、ColdFusion Administrator のセッションCookieの設定で HTTPOnly を[無効]にする

セッション Cookie 設定

次の ColdFusion セッション Cookie のプロパティを、サーバーレベルとアプリケーションレベルの両方で設定できます。ここでは、HTTPOnly を確認してください。暗号化された (HTTPS) 接続でのみ Cookie を使用できるようにするには、セキュア Cookie を有効にしてください。

Cookie タイムアウト 分

HTTPOnly

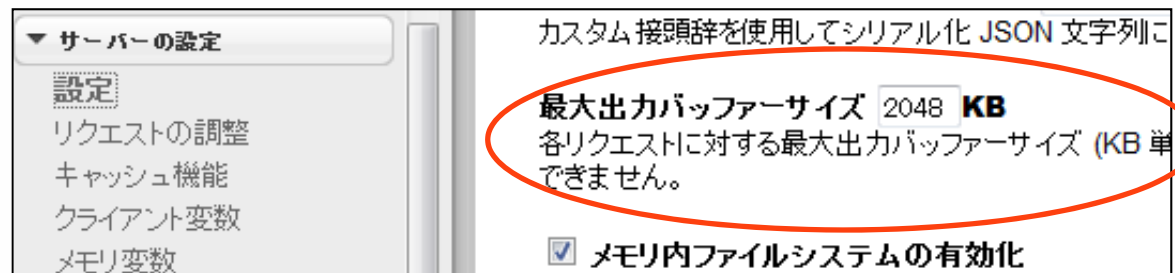
セキュア Cookie

ColdFusion のタグ / 関数を使用して ColdFusion の内部 Cookie を更新できないようにします。

はまらP⑥ 出力サイズの制限



■ 最大出力バッファサイズの制限が新たに追加



- 最大出力バッファサイズを超える処理（ブラウザに処理の結果として返す内容）があった場合、超えた時点で自動的にFLUSH（そこまでの結果をブラウザに返す）
 - FLUSHされた後にHTTPヘッダに情報を加えるCFタグや関数が実行されると処理が正常に行われない、もしくは、エラーとなる。
 - エラー例：「HTML ヘッダの追加に失敗しました。」
 - 該当タグ（例） cfcontent, cfcookie, cfform, cfheader, cfhtmlhead, cflocation, SetLocale, AJAX機能（cfdiv, cflayout 他）、フォーム機能（cfform, cftextarea 他）、他
 - Cfflushタグの説明が参照になる

はまらP⑦ アップロードファイル のファイルサイズの制限



(第一回のマイグレーションセミナーで質問に上がった制限)

- 制限自体は ColdFusion 8 から追加されているがマイグレーションテストを終えて、本番環境で運用を始めてからこの制限に気付く場合があるとのこと

リクエストサイズの制限

POSTリクエストパラメーターの最大数
サーバーに送信される POST リクエスト内のパラメーターの最大数
します。

送信データの最大サイズ MB
単一のリクエストでサーバーに送信できるデータ量を制限します。指
示された値を超えるデータを送信すると、サーバーはエラーを返す

リクエストのスポットリミット MB

- 最大データの最大サイズを超えるファイルをアップロードすると、エラーとなる

HTTPステータス 400 - 送信サイズが最大制限を超えています。

type ステータスレポート

メッセージ 送信サイズが最大制限を超えています。

説明 The request sent by the client was syntactically incorrect.

はまらP⑧ ファイルアップロード 種類の制限の追加



■ ～ColdFusion 9

- アップロード元のクライアント（ブラウザ）から通知されたMIMEタイプと拡張子のマッチングのみ

■ ColdFusion 10 以降

- デフォルトのファイルチェックの動作が、ファイルの先頭数バイトを読み込みMIMEタイプを自動的に判定する形に変わった
 - 旧来の拡張子によるチェック等に戻すには、10以降で追加された strict 属性に false を指定 (strict="false")
 - ただし、セキュリティ面から、クライアントから通知されたMIMEタイプだけのチェックでは懸念が残るため、別途ファイルチェックの関数などを使用したファイルチェック処理を行う事を推奨
- 参考サイト
 - ColdFusion Day 2014：セキュリティ強化に関するセッション
 - <http://www.samuraiz.co.jp/event/report/cfday2014/index.html>

制限の強化 まとめ

- 今回はマイグレーションに影響を与える可能性がある機能だけを紹介していますが、他にも ColdFusion 11 や 10 にはセキュリティ強化を目的とした機能や関数等が追加されています
 - 例えば、Administrator のログイン認証をすり抜けるような未知の脆弱性への備えに、リモートからの Administrator のアクセスを制限する機能など。
- 最新の Web アプリケーションのセキュリティ対策に対応すべく、マイグレーションのみならず、セキュリティ強化も検討される事を推奨します
 - 昨年 12 月の ColdFusion Day 2014 でも、セキュリティ強化に関するセッションを行っています。資料を下記のサイトに公開していますのでご参照ください
 - <http://www.samuraiz.co.jp/event/report/cfday2014/index.html>

2.

機能強化

機能強化による影響

- ColdFusionがリリースを重ねるごとに、最新のWebトレンドを新機能として組み込むのはもちろん、ColdFusion自身、あるいは既存のCFタグや関数に対する機能強化も数多く行われています
- 強化前と比べてデフォルト設定時の動作が異なる場合などもあるため、注意が必要です。
 - 「CFMLリファレンスマニュアル」を参照することで、既存のCFタグや関数に対してどのような機能強化が行われているか等を確認します

大はまらP^⑨ ファイル自動エンコード 判別処理



<cfprocessingdirective pageencoding="エンコード">が 無い場合のエンコード判別方法

- ColdFusion MX6.1～10
 - BOM付き UTF-8 か 検出されたJava ファイルエンコード (MS932等)
- ColdFusion 11
 - ファイル内容を読み取り自動的にエンコードを判定
- **確認されている問題**
 - 日本語を含むページのエンコードを誤認識
 - なるべくページの先頭に日本語を使う (ページの先頭に日本語を含んだコメントなどを挿入する)
 - 日本語Shift_JISで作成したページの特殊文字が化ける
 - (Update 3 以降) VM引数に「-Dfile.usesystemencoding=true」を追加
 - VM引数に「-Dsun.nio.cs.map=Windows-31J/Shift_JIS」を追加
- **参考サイト**
 - <http://cfassociates.samuraiz.co.jp/index.cfm/faq/coldfusion11/cf11-fileencode-problem/>

はまらP¹⁰ <cflogin>同じユーザーで複数ログインした際の動作の違い



■ <cflogin>の動作変更

- ColdFusion MX ~ CF9

- 同じユーザー名での複数同時ログイン可

- ColdFusion 10

- 同じユーザー名での複数同時ログイン不可
 - 従来の同時ログインを行うためには、cfloginuserタグのname属性にランダムな値を付加して、ColdFusionが同じユーザーとして処理をさせないにする

- ColdFusion 11

- cflogin タグに allowconcurrent 属性が新たに追加され、同時ログインの有効・無効を設定できるようになった

小はまらP¹¹ cfstat



■ ColdFusion 10よりマルチサーバー構成でも cfstat を利用可

- ColdFusion Administrator の[デバッグとロギング] > [デバッグ出力の設定]画面の[コネクタポート]が追加

CFSTAT の有効化
cfstat コマンドラインユーティリティは、ColdFusion のパフォーマンス測定値をリアルタイムで提供します。cfstat は測定値データを得るためにソケット接続を使用し、システムモニターアプリケーションを実際に使用することなく、ColdFusion からシステムモニターに書き込まれた情報を表示します。

コネクタポート

ColdFusion の cfstat コマンドラインユーティリティのパフォーマンス測定値は、このポートのパフォーマンス測定値を読み取ります。

更新する場合は、左側のボタンをクリックします。デバッグ出力の設定 変更の送信

- (開発用同梱Webサーバー) デフォルト 8500 (Webサーバーポート)
- (IIS や Apache と接続) コネクタポート
 - [cf_root]/インスタンス (既定cfusion) /runtime/conf/server.xml
 - デフォルト 8014(CF11), 8012(CF10)

```
<!-- Define an AJP 1.3 Connector on port 8009 -->  
<Connector port="8012" protocol="AJP/1.3" redirectPort="8445"  
tomcatAuthentication="false" />
```

■ cfstat {秒} → cfstat -x {秒}

- [CF Day 2014 「ColdFusion 技術サポート ホットトピックス」資料](#)

- <http://www.samuraiz.co.jp/event/report/cfday2014/>

JSON機能



■ ColdFusion 11で JSON機能が大幅に強化

- 他のシステムとの連携性の向上と機能強化

- 構造体のキーの大文字小文字の維持
- クエリオブジェクトのJSON変換にstruct型を追加
- (追加) serialize, deserialize、 (強化) serializeJSON, deserializeJSON

- 参考サイト：

- ColdFusion 11最新機能のご紹介資料
<http://www.samuraiz.co.jp/coldfusion/faq/>

■ ～2013年セミナーでも紹介～ JSONの変換処理の変更

- 数字の変換時の結果が、累積ホットフィックスを適用した9から異なる。

- 他のシステムとの連携時のトラブルを軽減させる目的に動作変更が行われたが、マイグレーションを優先し、8.0.x や累積ホットフィックス適用前の9と同じ動きに戻したい場合は、起動スクリプトに設定を追加する

- 参考サイト

- <http://cfassociates.samuraiz.co.jp/index.cfm/faq/cftech/cf-json-backword-compatibility/>

～2013年セミナーでも紹介～

CrLfインジェクション対策



■ ColdFusion 9のセキュリティアップデート以降で実装

- ヘッダを送信する処理に改行コード (CRLF - %0D%0A) が含まれていると、強制的に取り除く
- それ以前のバージョンで、CFCookie や CFHeader、CFMailparam で改行が含まれるデータを送っていた場合、バージョンアップ後に動きが異なる可能性があるので注意
 - CFCookieの値を暗号化している場合などで、暗号化したデータに改行コードが含まれていないかも注意
- 参考サイト
 - <http://cfassociates.samuraiz.co.jp/index.cfm/faq/cftech/coldfusion-crlf/>
- ColdFusion Day 2014 : セキュリティ強化に関するセッション
 - <http://www.samuraiz.co.jp/event/report/cfdays2014/index.html>

～2013年セミナーでも紹介～
セッション固定化 対策



■ ColdFusion 9のセキュリティアップデート以降で実装

- ColdFusionが発行していないセッションCookie(CFID/TOKEN)を送信してきたユーザーに対して、そのセッションCookieを破棄して新しい番号を振り直す
- クラスタ環境でサーバーが切り替わった場合、URLパラメーターにセッションIDが含まれている場合、ColdFusionの再起動後などでセッションIDが変わる場合がある
 - セッションIDを固定化したい場合（クラスタ環境等）でセッションIDが変更される事を防ぐ場合は、起動パラメーターに値を追加する
 - ただし、セッション番号の固定化は、セキュリティ上のリスクもあるため、セッションIDを変更・破棄する関数などと組み合わせる等を推奨
- 参考サイト
 - <http://cfassociates.samuraiz.co.jp/index.cfm/faq/cftech/cf-clustering/>
- ColdFusion Day 2014：セキュリティ強化に関するセッション
 - <http://www.samuraiz.co.jp/event/report/cfd2014/index.html>

機能強化による影響まとめ

- 今回はマイグレーションを中心に紹介していますが、ColdFusion 11では、スクリプト記述式の強化（ほとんどすべてのCFタグがスクリプトで記述可能）やメンバー関数サポートなど、JavaScriptや他のスクリプト系の言語に近い記述ができるようになりました。
他のプログラム言語を経験している開発者に対してなじみがある記述式でプログラミングができるようになるなど、開発者のこれまでの経験に応じた、より柔軟なプログラミングができるようになっています。
- ※ 一定のルールを決めて、今後の開発において、従来の記述式を利用するか新しい記述式にするかを検討されると良いと思います。

3.

同梱ライブラリ・ドライバ

同梱ライブラリ・ドライバの影響

- CFタグ・関数の内部処理でJavaライブラリを利用するものやデータベースに接続するためのJDBCドライバ、Webサービス機能を利用するための Apache Axis フレームワークなど数多く同梱され、それらの多くはColdFusionのバージョンアップやアップデート時に適宜更新されていきます
- ColdFusionをバージョンアップした際、プログラムに変更は無くても、上記が変更されているために、結果的に動きが異なる可能性もありますので注意が必要です

～2013年セミナーでも紹介～

各種ドライバ・ライブラリの更新



■ JDBC Driver の更新

- 一部の Type 4 ドライバのバージョンUpによる影響
 - データベースの文字コードUTF-8以外の場合に、一部特殊文字が化ける、クライアント変数の一部が切れる、 varchar(max) の値が取れない
 - 接続文字列に「CODEPAGEOVERRIDE=MS932」を追記
 - 参考サイト
 - <http://cfassociates.samuraiz.co.jp/index.cfm/faq/cftech/cf-datasource-connectstring/>

■ Google maps Javascript API v3

(ColdFusion 10 のみ アップデート 8 以降を適用した場合)

- ライブラリのAPI のバージョンが v2 ⇒ v3 に変わる
 - 独自にJavaScript API v2を参照するJavaScript等を使ってプログラムしている場合、API v3に変わった影響がないかを確認する事を推奨

はまらP^⑫ Ajax (JavaScript フレームワーク) の変更



■ Ajax機能に ExtJS を利用。

- CF8: 1.0-1.1, CF9: 3.0-3.1, CF10: 3.1 → CF11: 4.1 (Sencha)
 - CFタグ・関数からの呼び出しでなく、独自にExtJSのJavaScriptを利用していた場合、ライブラリのバージョンアップで動かない場合がある
 - 初期のColdFusion 11ではグリッド系の一部動作に不具合
 - 参考サイト：※下記のページの一部問題はアップデートで修正済み
 - <http://cfassociates.samuraiz.co.jp/index.cfm/faq/coldfusion11/cf11-grid-problem/>

■ ～2013年セミナーでも紹介～ ExtJS の更新

- CF8から 9や10
 - ExtJS 1.x ⇒ 3.1 に更新されるため、表示されるグリッドやウィンドウの見た目が変わる
- CF9.0.0から 9.0.1、10
 - 若干の機能追加により、9.0.0と見栄えが異なる場合がある (<cfgrid>)

独自に ExtJS の JavaScript を使って処理をしているページがある場合、動きが変わらないか動作テストが必要

小はまらP^⑬ スプレッドシート (Excel) 機能の変更



- ColdFusion9から追加された機能で、内部でApache POIを使用して各種Excel処理を行う
 - CF9, 10は Apache POI 3.6 を同梱していたが、CF11 で 3.9 に更新。SpreadSheetWrite関数の機能強化や処理の改善などが行われた
 - <http://blogs.coldfusion.com/post.cfm/improvements-and-enhancements-in-spreadsheet>
 - Apache POIの更新により、Apache POIに起因していた不具合も改善
 - <http://cfassociates.samuraiz.co.jp/index.cfm/faq/coldfusion11/cf11-poi-spreadsheet/>

Excel 2007フォーマット(xlsx)は、バイナリ形式だったExcel 97-2003フォーマット(xls)と異なりXMLをベースとしたファイル形式。内部処理も全く異なり、(Excelファイルにもよるが)xlsx形式はxls形式と比較しても**処理が遅くメモリも多く消費される模様**。xlsxファイルに対する処理を行う場合は、開発・テスト段階で十分に確認が必要であり、結果次第では**xlsファイルの使用に変更を検討**。

はまらP¹⁴ cfchartタグ チャートのエンジンの変更



■ ColdFusion MX6～

- サーバーチャート： WebCharts3D

■ ColdFusion 10

- サーバーチャート： WebCharts3D (変更なし)
- (新機能) クライアントチャート (Enterpriseのみ)： ZingChart

■ ColdFusion 11

- サーバー&クライアントチャート： ZingChartに統一

※旧バージョンでスタイルを使用して表示をカスタマイズしている方は
見た目の調整を行う必要がある

(plot, plotarea, legend 属性等で指定可)

- 参考サイト

- <http://cfassociates.samuraiz.co.jp/index.cfm/faq/coldfusion11/cf11-cfchart-tips/>

はまらP¹⁵ Webサービス(Axis)、XPath、XSLT



■ ColdFusion 10より機能強化

- Webサービスは、既存のAxis1に加えてAxis2が追加されているがXPathやXSLTはバージョンが切り替わっているため、古い記述式のままではエラーが発生する場合があります
 - エラーが発生した際は、新しいバージョンでの呼び出し方に切り替える
 - 参考サイト（一般サイト）
<http://www.cfdad.com/2012/08/24/coldfusion-10-broken-xmlsearch/>

■ ～2013年セミナーでも紹介～

- Webサービス Axis 2
 - 従来の動きが変わった場合は、Web サービスのバージョンを1に戻して確認する
- XPath 2.0、XSLT 2.0 シンタックス
 - 従来と動きが変わった部分がシンタックスの部分の場合は、シンタックス側での動作変更となるので、シンタックスを2.0のライブラリでも動くよう似変更する

同梱ライブラリ・ドライバの影響まとめ

- ColdFusionのバージョンアップやアップデートを適用することで、同梱ライブラリやドライバの変更される事がある。
 - 多くはバグフィックスや新規対応となるが、他に影響が無いかをメーカーWebサイト（アップデートのページ）、公式ブログや弊社サイトのFAQ等で確認し、テスト等も検討する
 - 例： ColdFusion 11 Update 3 リリースノート
3827088 Update DataDirect driver version from 5.1.1 to 5.1.3
 - ColdFusion 11 アップデート一覧
 - <https://helpx.adobe.com/coldfusion/kb/coldfusion-11-updates.html>
 - ColdFusion 10 アップデート一覧
 - <https://helpx.adobe.com/coldfusion/kb/coldfusion-10-updates.html>
 - ColdFusion 公式ブログ
 - <http://blogs.coldfusion.com/>
 - 弊社技術 FAQ サイト
 - <http://cfassociates.samuraiz.co.jp/index.cfm/faq/>

4.

非推奨や削除

非推奨と削除された機能



- ColdFusion 11より新たに「非推奨となった機能」
- 過去に非推奨となり「11で削除された機能」
 - 公開ページ（英語のみ）
 - <https://wikidocs.adobe.com/wiki/display/coldfusionen/Deprecated+Features>
 - (主な) ColdFusion 11より非推奨となった機能
 - cfapplet, cfsprydataset, LCDS連携, AIR統合, XML Form
 - Flash Form, Flashpaper, CF.query, CF.http, Flashプレゼンテーション
 - **HTMLEditFormat**関数（次スライド）
 - (主な) ColdFusion 11で削除された機能
 - ColdFusion MX や MX 7 で非推奨となった機能が、11で削除された
 - cfgraph や cfgraphdata, cfservlet, cfservletparam, cftextinput
 - その他、タグの一部の属性など

HTMLEditFormat 関数



- ColdFusion 11から「非推奨」となった関数。しかし。。。
 - Adobe recommends that you use the **EncodeForHTML** function, not the HTMLEditFormat function, to escape special characters in a string for use in HTML in all new applications.
 - ColdFusionはXSSを防止するための簡単な方法としてHTMLEditFormatが使用されてきた。
 - ColdFusion10では、使用する箇所に応じて機能を最適化する encodeForCSS, encodeForHTML, encodeForHTMLAttribute, encodeForJavaScript, encodeforURL, encodeForXML関数が追加
 - ゆえに、今後新しいアプリケーションで使用する際は、新しく用意された EncodeForHTMLを薦めるとのこと
 - ただしEncodeForHTML関数は日本語などもエンコードされる点に注意
 - 参考サイト（一般サイト）
<http://www.isummation.com/blog/day-2-avoid-cross-site-scripting-xss-using-coldfusion-10-part-1/>

小はまらP¹⁶ 公開されていないタグや関数



■ 公開されていないタグや関数

- 過去にAdministrator内で内部的に使われていたタグや関数が存在
 - ユーザーが使用することを想定していない
 - タグや関数の属性（引数）や使用方法もドキュメント化されていない
 - CFINTERNALDEBUG, CFUSION_GETODBCINI(), CF_ISCOLDFUSIONDATASOURCE()



いつ廃止したかどうかも含め、情報は公開されない

- ColdFusion 11 でも cfusion_* という内部関数が動かなくなったという報告がある
 - cfusion_encrypt, cfusion_decrypt
 - Encrypt と Decrypt に変える
 - 「cfusion_encrypt, cfusion_decrypt」と「Encrypt, Decrypt」は動作に互換性がないので注意

5.

Tomcatへの変更や
アップデート機能、
Java VM

Tomcatへの変更とは

Standard 版

Enterprise 版

サーバー設定

MX6.1~9
(JRun Base)



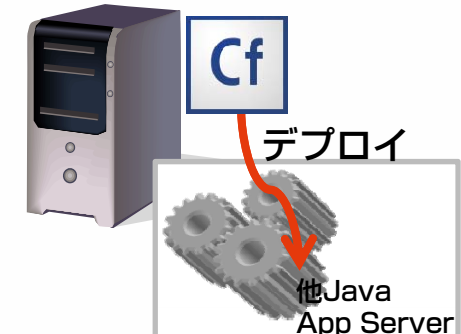
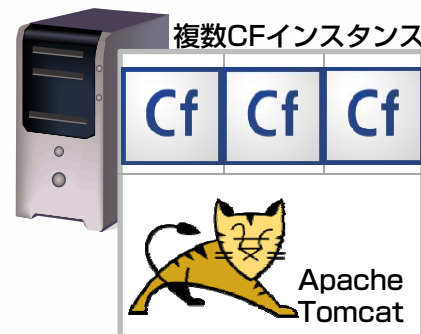
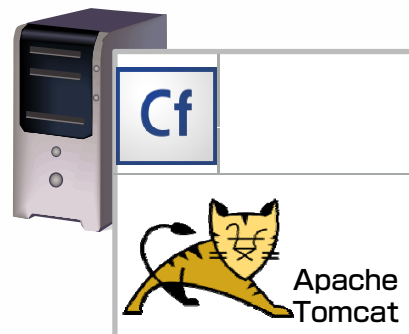
マルチインスタンス構成



J2EE構成



10~
(Tomcat Base)



サーバー設定とマルチインスタンス構成の課題の解消



■ MX6.1～9 で発生していた課題

- 全く異なるインストール先
 - サーバー設定は従来から続くなじみのあるフォルダ構成だが、マルチインスタンス構成は JRun 4 がインストールされ、その中にCFが入った状態になる
- フォルダ構成が全然違う
 - フォルダ内容も、マルチインスタンス構成は JRun 構成をそのまま使っていたので、設定ファイルやWebルートフォルダなどが全く異なっていた
- cfstat が使えない
- JRun管理コンソールとColdFusion Administratorが別にあった
 - 当初、一部の設定のためにJRun管理コンソールにログインする必要があった

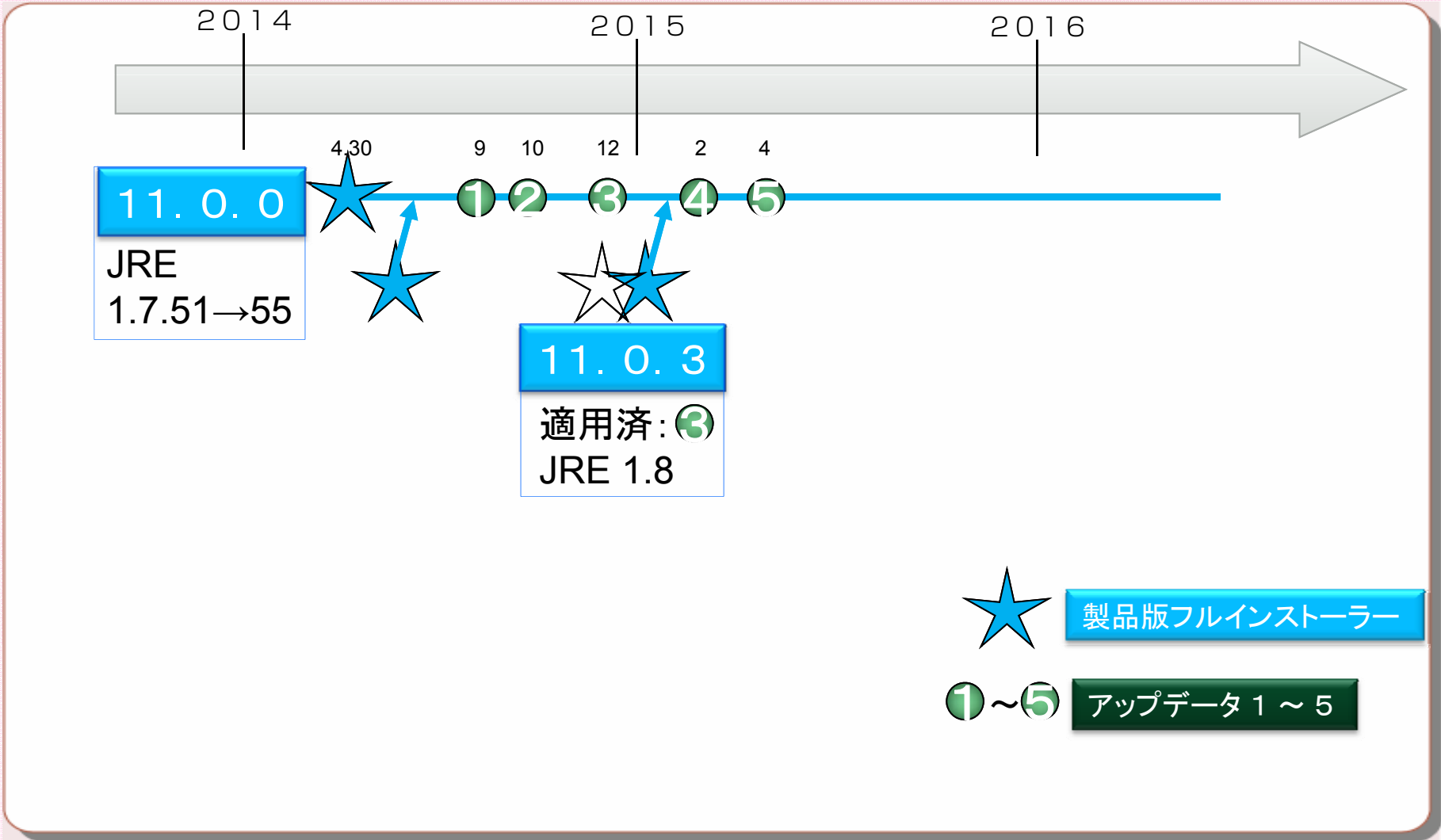
■ 10 以降

- サーバー設定・マルチインスタンス設定を共通化
- インストール先・フォルダ構成も統一化された
 - 従来との違いは、インストール直下にデフォルトで[cfusion]というフォルダが作られ、その中になじみのある従来のサーバー構成のフォルダが置かれた
- cfstat もインスタンスごとに使えるように改良

アップデートとは

- ColdFusion 10以降に追加された、ColdFusionを最新の状態に保つための機能
- アップデータに含まれるもの
 - バグフィックス、セキュリティ問題の修正
 - 最新のJava VMへのサポート
 - 内部エンジン(Tomcat), Webサーバー接続コネクタのアップデート
 - ドライバや同梱されているライブラリの更新
- 適用方法
 - ColdFusion Administrator - [サーバー更新]
- 注意事項
 - 以前のアップデートの修正も含まれた**累積アップデート**で提供
 - 最新の修正だけでなく、過去の修正による影響が生じないかもチェック
 - アップデート適用後の追加の手順の有無を確認
 - WebサーバーとColdFusionとの接続コネクタを設定しなおす、等

ColdFusion 11 アップデート年表



- ★ 製品版フルインストーラー
- ①~⑤ アップデータ 1 ~ 5

はまらP^{①7} インストーラーが4種類



1. 製品リリース時 (2014.4末)

- ColdFusion 11 リリース版

2. 製品リリース後しばらく後 (2014.5 頃)

- 同梱 JRE が 1.7.0_55 に変更されたインストーラー

3. JRE 1.8 変更版 (2014.12)

- 同梱JRE が1.8 に変更されたインストーラー
 - Update 3 も含まれる (Update 3以降でJava1.8をサポートしたため)
 - インストーラーで日本語が選択できず (ウィザードも英語で表示される)、インストール後の管理画面も英語で表示される不具合を確認
- メーカーにて確認後、修正版インストーラーをリリース (下記4)。

4. 3. の修正版 (2015.1)

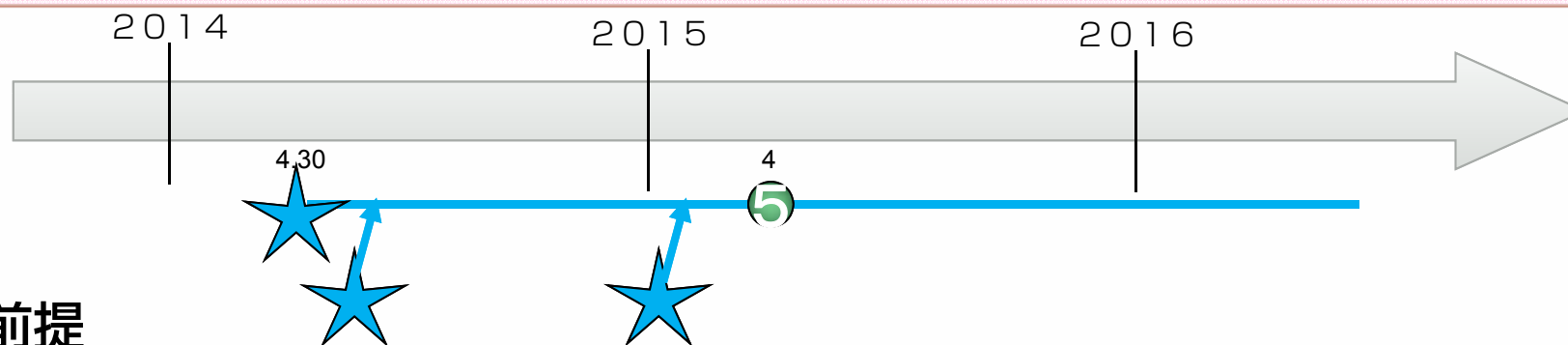
- 日本語の問題を修正したインストーラ
- メーカーサイトの体験版ダウンロードで入手できる

アップデート1～5



- セキュリティ問題（「優先度2：重要」の修正）
 - アップデート2、3
- 多数のバグフィックス
 - アップデート3（190）、5（110）
- Java 8 サポート
 - アップデート3
- 内部エンジン Tomcat のアップデート
 - アップデート3
- Webサーバー接続コネクタのアップデート
 - アップデート3（1.2.32→1.2.40）
 - アップデート5（IIS修正、Apache2.4.10サポート）

まとめ：ColdFusion 11を 最新の状態にする



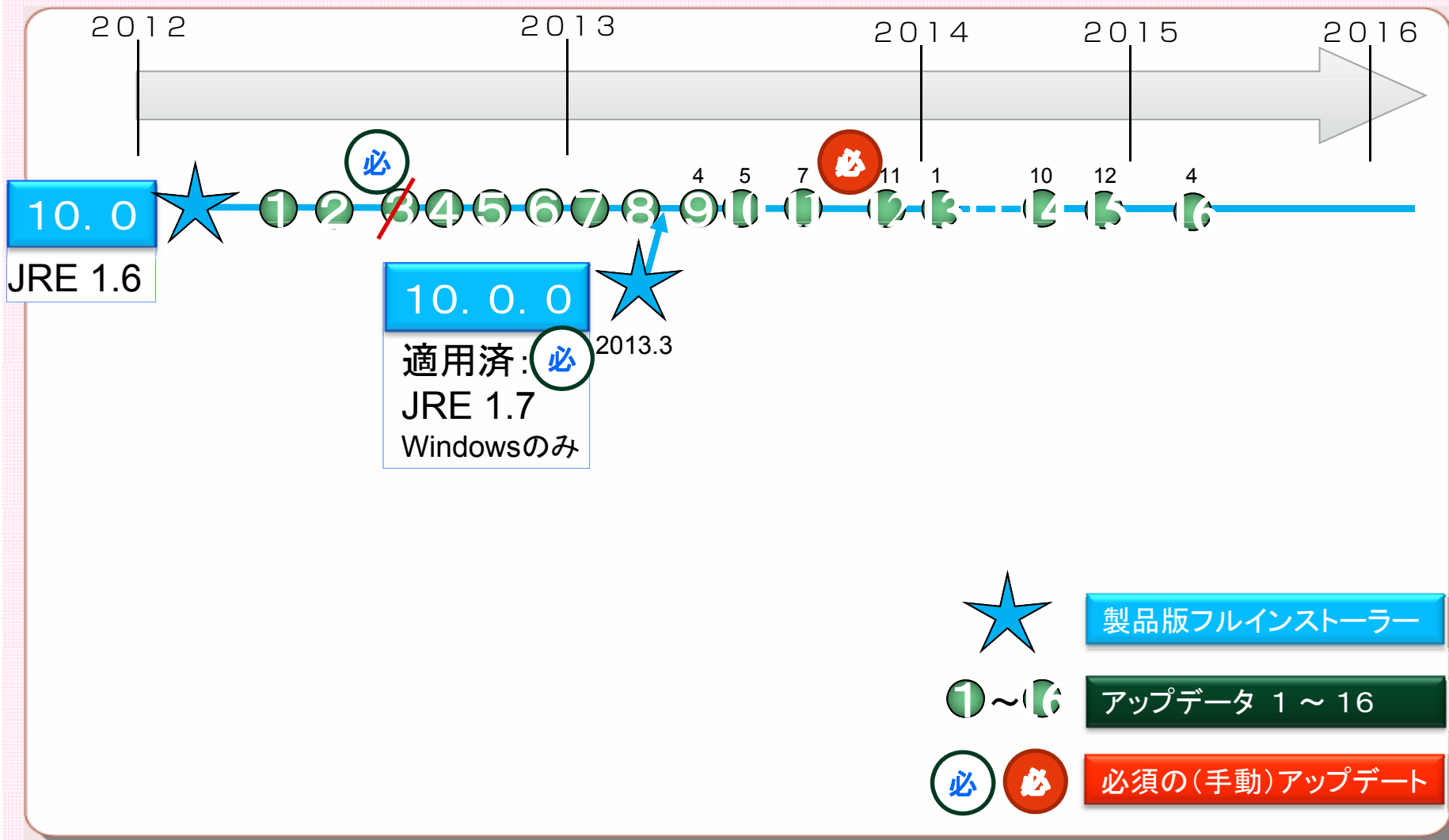
■ 前提

1. ColdFusion 11 のどのインストーラーを使ってインストールしたかを確認
2. Java 8、または、Java 7 への切り替えを行う場合、該当する最新リビジョンの Server JRE をダウンロード

■ 作業

1. ColdFusion 11 Administratorの[サーバーの更新]画面で、最新のアップデートを適用
 - 2015年4月現在、Update 5
2. Updateなし～2 → 最新のアップデートを適用した場合や、Update 3～4でIISと接続を行っている場合
 - Update 5 適用後、Webサーバー接続コネクタを再設定する
3. Server JRE を変更する場合は、その対応

ColdFusion 10 リリース年表



インストーラーについて（はまらない）



1. 製品リリース時（2012.5）

- ColdFusion 10 リリース版

2. Windowsのみ新OS, IISサポート版（2013.5 頃）

- Windows 8、Windows Server 2012、IIS 8 をサポート
- 同梱されるJREが JRE 1.7 Update 15 に変更

※ColdFusion 10のアップデートは含まれていない

※「必須のアップデート」も古いのしか入っていない

- 参考情報

- <http://cfassociates.samuraiz.co.jp/index.cfm/faq/aboutcf/cf10-new-installer-win/>

はまらP^⑱ 必須のアップデート



ColdFusion Administrator の [サーバー更新]機能に対する ファイルの正当性をチェックするデジタル署名の差し替え

■ 注意点

- 新規にColdFusion 10をインストールした後、この必須のアップデートを適用しないと「通常のアップデート」が適用できない
- 「通常のアップデート」と違い「サーバーの更新」機能では適用不可
 - アドビWebサイトより「必須のアップデート」をダウンロードし、コマンドプロンプトを開いてコマンドでインストーラーを起動する
- 過去に必須のアップデートを当てた人、かつ、アップデート7以下
 - 2013年11月に再びデジタル署名の差し替え（「必須のアップデート」の適用）が必要
 - 参考情報
 - <http://cfassociates.samuraiz.co.jp/index.cfm/faq/aboutcf/coldfusion10-new-mandatory-update/>



アップデート1～16

■ セキュリティ問題

- アップデート2、5、6、7、9、10、11、12、15、16

■ 多数のバグフィックス

- アップデート11 (50) 、 14 (60) 、 16 (36)

■ Java 7 サポート

- アップデート8

■ Java 8 サポート

- アップデート14

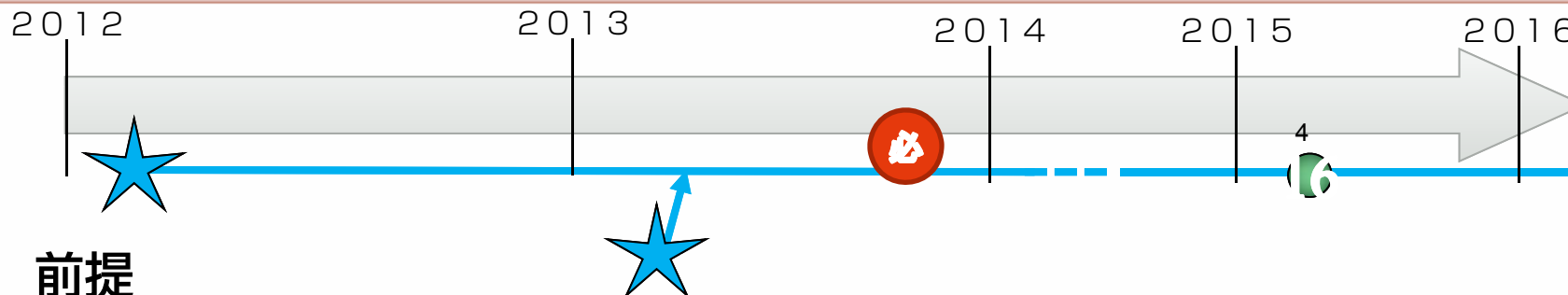
■ 内部エンジン Tomcat のアップデート

- アップデート14

■ Webサーバー接続コネクタのアップデート

- アップデート14 (1.2.32→1.2.40)
 - それ以前の一部アップデートでもコネクタの修正は行われている

まとめ：ColdFusion 10を 最新の状態にする



■ 前提

1. Java 8、Java 7 またはそれぞれの最新リビジョンへの切り替えを行う場合、
該当の Server JRE をダウンロード

■ 手順

1. (現環境：アップデート7以下)更新された「**必須のアップデート**」インストール
2. Administratorの[サーバーの更新]画面で、最新のアップデートを適用
 - 2015年4月現在、Update 16
3. Updateなし～13 → **最新のアップデートを適用した場合**
 - ColdFusion 11 と Webサーバー間の接続コネクタの再設定
4. Java 6→7、または 8 に変更する場合・**最新のリビジョンに変更する場合**
 - ColdFusion 10 アップデート 14 の Java 8 サポートに関する注意点
 - <http://cfassociates.samuraiz.co.jp/index.cfm/faq/aboutcf/cf10-update-14-java8/>

補足：手動でアップデートを適用する



- アップデートは jarファイルでインストーラーが含まれている
 - 例：ColdFusion Administratorへのアクセスを遮断
 - 例：ColdFusion の実行ユーザーでファイルの変更不可
 - 例：ColdFusionサーバーから外部インターネットに接続不可
- など、通常の方法でアップデートが適用できない場合、メーカーWebサイトでアップデートをダウンロードし、インストールを起動する
 - メーカーWebサイトから公開されているアップデートをダウンロードし、その後、下記の「方法②」のやり方でインストーラーを起動する
 - <http://cfassociates.samuraiz.co.jp/index.cfm/faq/aboutcf/cf10-update-manually/>
 - アップデートのダウンロードサイト
 - ColdFusion 10
 - <https://helpx.adobe.com/coldfusion/kb/coldfusion-11-updates.html>
 - ColdFusion 11
 - <https://helpx.adobe.com/coldfusion/kb/coldfusion-10-updates.html>

サポートする Java VM



Java VMは ColdFusionの新バージョンやアップデート時にサポートするバージョンが更新されます（新しい Java VMに切り替える際は、各自で Oracle社のサイトから該当するモジュールをダウンロード・インストールします）

■ ColdFusion 11

- (Update 3以降) **Java 8, 7**
- Java 7

■ ColdFusion 10

- (Update 14以降) **Java 8, 7, 6**
- (Update 8~13) Java 7, 6
- Java 6

※2012年9月より、Javaサポートに関するポリシーが変更され、最新のマイナーアップ（リビジョン）もサポート対象となりました。

Java自体のセキュリティの問題が発覚した際は、深刻度に応じて最新のマイナーバージョンに切り替えることを推奨します。

ColdFusion 11はJava 6以下では動かない



■ Server JRE 1.6 で試したところ、起動に失敗

Caused by: java.lang.UnsupportedClassVersionError:
coldfusion/bootstrap/BootstrapClassLoader : Unsupported
major.minor
version 51.0 (unable to load class
coldfusion.bootstrap.BootstrapClassLoader)

51.0 (1.7) Java VM以降でないとは動かないというエラー

- 独自のJavaプログラムを組み込んで運用している場合は、そのプログラムがJava 1.7 (以降) でも動く事を確認する
- J2EEインストール (既存のJava APPサーバーにCF11をデプロイ) の場合、デプロイ先の環境のJVMのバージョンを確認する

使用する Java のバージョンの検討



- 不特定多数からの攻撃が懸念される外部サイト
 - ColdFusionのセキュリティに加え、Java Runtime のセキュリティにも配慮が必要
 - Java 7 のパブリック・アップデートは、2015年4月で終了。以後はクローズド
 - Oracle社 と Oracle Java SEの有償ライセンスを契約したユーザーのみアップデートが提供される
 - Oracleとの有償サポートを契約しないユーザーは、将来のセキュリティ脅威に対応できない可能性があるため Java 8 へ切り替えを要検討

- Java 8 で動作に問題が生じた場合
 - 問題が発生する箇所を別の方法で回避を検討
 - 回避が難しい場合は、Java 7に戻す事も検討
 - 外部サイト等、Java7を使用する事によってセキュリティリスクに懸念が生じる場合は、ユーザー⇔Oracle間で有償サポートの購入を要検討

はまらP¹⁹ Java 8 利用時の問題



■ 「Microsoft Access」 「ODBC Socket」 での日本語モード

- 日本語に対応するための設定 (ServiceCodePage OS) を行うと接続エラーとなる

- JavaのAPI変更に伴うもので、3rd Partyモジュールに原因が存在
- Java 7 では問題が発生しないため、現状の唯一の回避策としてはJava 7 に戻す
 - 参考サイト
 - <http://cfassociates.samuraiz.co.jp/index.cfm/faq/cftech/cf-securelink-servicecodepage/>

はまら²⁰ Java 7 → 8 に変更する 場合の注意



■ 手動でtools.jarを差し替える

- Webサービスの呼び出しで下記のようなエラーとなる

```
次の情報は、Web サイト開発者のデバッグに役立ちます。  
リクエストを処理する際に、エラーが発生しました。  
coldfusion.jsp.CompilationFailedException: Java コンパイラがエラーを報告しました  
:C:/ColdFusion10/cfusion/stubs/WS-  
2034137753_1/jp/MyDictionary/SOAPServiceV11/ArrayOfUnsignedInt.java:10:  
java.lang.Object にアクセスできません。クラスファイル  
java/lang/Object.class(java/lang:Object.class) は不正です。クラスファイルのバージ  
ョン 52.0 は不正です。50.0 であるべきです。削除するか、クラスパスの正しいサブディレク  
トにあるかを確認してください。public class ArrayOfUnsignedInt implements  
java.io.Serializable { ^
```

- tools.jarは ServerJRE には含まれていないので、別にJDKをインストールしてそこからtools.jarをコピーしてくる

- 参考サイト

- <http://cfassociates.samuraiz.co.jp/index.cfm/faq/coldfusion11/cf11-update-3-java8/>
- <http://cfassociates.samuraiz.co.jp/index.cfm/faq/aboutcf/cf10-update-14-java8/>

小はまらP21 Java 8 → 7 に戻す 場合の注意



- 2014年12月以降のCF11のインストーラは JRE 8が同梱
- それをJRE 7に変更する、単にパスを切り替えただけだとエラーが発生して起動に失敗する
 - Java 8で変更されたパーマメント領域の設定「-XX:MaxMetaspaceSize」をJava 7に合わせて変更「-XX:MaxPermSize」する
 - 参考サイト
 - <http://cfassociates.samuraiz.co.jp/index.cfm/faq/coldfusion11/cf11-back-to-java7/>
- Webサービス呼び出し時にエラーが発生する場合は、tools.jarをJava7ベースのものに差し替える
 - 参考サイト
 - <http://cfassociates.samuraiz.co.jp/index.cfm/faq/coldfusion11/cf11-back-to-java7/>

6.

運用する環境面

OSやWebサーバーの変更や 新バージョンへの移行



- ColdFusion 11では、リリース時、および、Update 3以降で最新のOSプラットフォームやWebサーバーをサポート

追加された主なOS

- Windows 2012 R2 : IIS 8.5
- (Update 3以降) Red Hat Enterprise Linux 7
- (Update 3以降) Mac OS X v 10.9.5, 10.10(Yosemite)
- Ubuntu 13.04, 13.10, (Update 3以降) 14.04, 14.10
- Cent OS 6.5

追加された主なWebサーバー

- (Update 5) Apache 2.4.10

～2013年セミナーでも紹介～

IIS7.xや8.xと接続する際の注意点



1. IIS側とColdFusionの連携に必要な役割サービス

- 「ISAPI 拡張機能」、「ASP.NET」、「CGI」、（およびそれら機能が動作するのに必要な役割サービス）が必要

<http://cfassociates.samuraiz.co.jp/index.cfm/faq/aboutcf/cf10iis7>

2. 64bit OS の IIS に 32bit ColdFusion をインストール・接続する際

- IIS側の設定で 32bitアプリケーションを有効化する

<http://cfassociates.samuraiz.co.jp/index.cfm/faq/cftech/64bitiis-to-32bitcf/>

3. 古いColdFusionの接続設定が残っていて、新しいバージョンのColdFusion正しく接続できない

- 手動でIIS側のColdFusionの設定を削除して、改めて新しいバージョンのColdFusionと接続設定を行う

<http://cfassociates.samuraiz.co.jp/index.cfm/faq/cftech/cf-iis7>

～2013年セミナーでも紹介～

32bit OS から「64bit OS」 への 変更



■ 64bit OS の利点

- OSに多くの物理メモリを搭載できる
 - 32bit OS では、4GBなどの上限があった
- 64bit アプリケーションにより多くのメモリを割り当てられる
 - 1プロセス（アプリ）で使用可能なメモリが 2GBなどの制限があった
- メモリが必要なアプリケーションを多く実行できる
 - 仮想OSソフトウェア VMWARE など
 - ColdFusion Enterprise版のマルチインスタンス

～2013年セミナーでも紹介～

64bit 版 ColdFusion について



- 64bit版 ColdFusion を利用する利点

- 32bit版の限界を超えるメモリサイズを指定可
 - メモリを多く使用するアプリケーションなどで、メモリ不足により発生しがちなGCの回数を減らし、より高いパフォーマンスを期待できる。

- 注意すべき点

- GCに掛かる時間が長くなる。
 - かえってパフォーマンスが悪くなる場合もある。
- Microsoft Accessと接続できない。
 - ODBC Socketもエラーとなる。
- 32bit版でC++、COMなどのライブラリを使用している機能は、64bit版ColdFusionでは使用できない。
 - C++で作られたカスタムタグやcfobjectを使って呼び出した.dllなども同様

- 対応・参考サイト

- 該当部分の処理を変える（例えば64bit版で動作するC++に変える）か、あるいは32bit版ColdFusionを入れる

<http://cfassociates.samuraiz.co.jp/index.cfm/faq/cftech/limitedsupportfor64bitcf/>

「外部リソース（DBやバックエンド）のバージョンアップや変更



- ColdFusion 11では、リリース時、および、Update 3以降で最新のデータベースをサポート

追加された主なデータベース

- Oracle 11g R2, 12c including RAC support
- MySQL 5.7
- (Update 3以降) Microsoft SQL Server 2014
- (Update 3以降) PostgreSQL 9.3.4
- (Update 3以降) Sybase Adaptive Server Enterprise 16
- (Update 3以降) DB2 10.5

その他外部リソースの変更等

- Microsoft Exchange 2010サポート強化、Office 2010 Excelサポート強化、Word, ppt→PDFサポート強化、等

7.

その他（参考情報）

はまらP22 Administratorに入れなくなった (パスワードリセット)



- 10 以降、パスワードリセットはバッチプログラムで行う
 - [cf_root]¥cfusion¥bin¥passwordreset.bat

```
C:\Windows\system32\cmd.exe
C:\ColdFusion11\cfusion\bin>passwordreset.bat
Enter 1 for changing Admin Password and 2 for changing Admin Component(jetty) password :
1
Enter new Admin Password :
Confirm new Password :
Enter new RDS Password :
Confirm new Password :
Your Admin and RDS password has been reset. Re-start the server to reflect the changes.
C:\ColdFusion11\cfusion\bin>
```

- パスワード変更処理を行う際、下記のようなエラーが発生する場合があります。「管理者権限」でコマンドプロンプトを開き、上記 bin ディレクトリに移動した後、バッチを起動するとエラーが解消される

```
java.io.FileNotFoundException: ..\lib\password.properties (アクセスが拒否されました。)
Exception in thread "main" java.lang.NullPointerException
    at com.adobe.coldfusion.passwordreset.PasswordReset.closeWriter(PasswordReset.java:254)
    at com.adobe.coldfusion.passwordreset.PasswordReset.resetAdminPassword(PasswordReset.java:197)
    at com.adobe.coldfusion.passwordreset.PasswordReset.main(PasswordReset.java:90)
C:\ColdFusion10\cfusion\bin>
```


小はまらP23 サーバーモニターの メッセージが英語になった



- ColdFusion 11 でサーバモニタの表記が日本語にならない
 - サーバモニタの言語ファイルがxmlよりcfmに変更されたことによる影響の可能性

- (暫定的な対処として) 日本語にするには
 - ColdFusion 10の言語ファイルを使用する
 - [cf10_root]¥cfusion¥wwwroot¥CFIDE¥administrator¥monitor 内
 - multiserver_resource_jp.xml
 - smresource_jp.xml
 - ColdFusion Administrator 「ColdFusion サーバーの監視」 - 「監視設定」で「監視サーバー設定」を有効にしている場合
 - 上記2ファイルを下記の場所にコピー
[cf11_root]¥cfusion¥wwwroot¥CFIDE¥administrator¥monitor
 - 「監視サーバー設定」を有効にしていない場合
 - 上記2ファイルの拡張子を .cfm に変更し、
[cf11_root]¥cfusion¥wwwroot¥CFIDE¥administrator¥monitor 内の同名ファイルをリネーム (.cfm → .bak 等) した後、2ファイルを配置する

小はまらP24 (IIS)ラピッドフェール保護機能



- アプリケーション プールを提供しているプロセス内での一連のエラーのためアプリケーション プール 'xxxx'は自動的に無効になっています
- アプリケーション プール 'xxxx' に使われているプロセスで Windows プロセス アクティブ化サービスとの通信に重大なエラーが発生しました
- 上記のエラー発生による IIS の再起動の必要性が生じる場合

- 最新のアップデートを適用し、コネクタを再登録する
- 一時的な対応として、IISのラピッドフェール保護機能の設定を変更して現象発生の加減を見る
- ColdFusionでエラーが発生する

アプリケーション プール

このページでは、アプリケーション プールの一覧を表示および管理することができます。アプリケーション プールはワーカー 1 つ以上のアプリケーションを含み、異なるアプリケーションを分離させます。

名前	状態	.NET Fra...	マネージ バイ...	ID	アプリケーシ...
ASP.NET v4.0	開始...	v4.0	統合	ApplicationPoolI...	0
ASP.NET v4.0 ...	開始...	v4.0	クラシック	ApplicationPoolI...	0
Classic .NET ...	開始...	v2.0			
coldfusion	開始...	v2.0			
DefaultAppPool	開始...	v2.0			
forum	開始...	v2.0			

詳細設定

有効 False

ラピッド フェール保護

"サービスを使用できません" の応答の種類	HttpLevel
エラー間隔 (分)	5
最大エラー数	5
実行可能ファイルのシャットダウン	
実行可能ファイルのシャットダウンのパラメー	

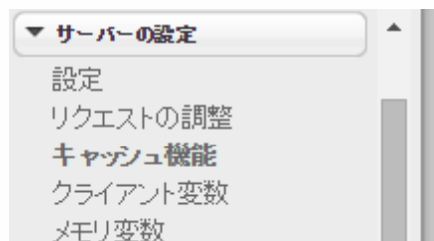
有効 True

有効
[rapidFailProtection] True の場合、指定された時間内 (エラー間隔) に、一定数のワーカー プロセスのクラッシュ (最大エラー数) が発生すると、アプリケーション プールがシャットダウンします。既定では、5 分以内に 5 回のクラッシュが発生すると、アプリケーション プールがシャットダウンします。

小はまらP25 Update 5適用後 IncompatibleClassChangeError



- ColdFusion 11 Update 5 を適用した環境で、適用前の CFページ (.cfmや.cfc) で Encrypt を使用していると、適用後にエラーが発生する場合があります
 - `java.lang.IncompatibleClassChangeError: Expected static method coldfusion.runtime.CFPage.Encrypt(Ljava/lang/String; ...`
- Encrypt機能が使用する内部のJavaメソッドのシグネチャの変更により、既にコンパイル済み（Javaバイトコードに変換済み）のコードをそのままUpdate 5の環境で利用するとエラーが発生している模様
 - ColdFusionのテンプレートキャッシュを削除する



テンプレートキャッシュをクリア

下のボタンをクリックすると、テンプレートキャッシュがクリアされます。次回リクエストされ、修正されていた場合は再コンパイルされます。

テンプレートキャッシュを直ちにクリア

フォルダー固有のテンプレートキャッシュをクリア

- エラーが発生したCFページの内容を変更し、再コンパイルさせる

小はまらP26

java.library.path



- ColdFusion から非Java (OSのネイティブのライブラリ等) を呼び出す処理や、データベースクライアントを経由したDB接続を行う際にライブラリが見つからないエラーが発生した場合
 - ColdFusionの起動スクリプトファイル内にある `java.library.path` にライブラリが置かれているディレクトリを指定する
 - 参考サイト
<http://cfassociates.samuraiz.co.jp/index.cfm/faq/cftech/cf-set-java-library-path/>

※ColdFusion に同梱されている以外のライブラリやデータベースドライバを利用する外部処理で発生したトラブル等はColdFusionサポートの範囲外となります。

～2013年セミナーでも紹介～ (過去に) 確認された問題



- Flash Remoting が動かない

- 原因：Flash Remoting の呼び出し先のURLの末尾に / (スラッシュ) が付いていない、等
- 問題の対応：末尾にスラッシュを付ける
- 参考情報：
 - ColdFusion 10 で Flash Remoting が動かなくなった場合の確認事項
 - <http://cfassociates.samuraiz.co.jp/index.cfm/faq/aboutcf/cf10-flash-remoting/>

- Linux 環境で Solr Searchサーバーが起動しない

- 原因：起動スクリプトの記述の問題
- 問題の対応：起動スクリプトを修正する
- 参考情報：
 - ColdFusion 10 Linux 環境で Solr Searchサーバーが起動しない場合
 - <http://cfassociates.samuraiz.co.jp/index.cfm/faq/aboutcf/cf10-solr-search/>

～2013年セミナーでも紹介～

(過去に) 確認された問題 (続き)



- Linux 環境の cfhttp タグに処理時間がかかる
 - 原因：OS内の疑似乱数生成時のエントロピープールの枯渇
 - 問題の対応：プールを再利用するようにOSを設定
 - 参考情報：
 - ColdFusion 10 Linux 環境の cfhttp タグの処理時間について
 - <http://cfassociates.samuraiz.co.jp/index.cfm/faq/aboutcf/cf10-cfhttp-response/>

ColdFusion と IIS とのコネクタを削除した後、IISマネージャでエラーが発生した場合

例：ColdFusion 8 + IIS で稼働中のサーバーで、ColdFusion をバージョンアップするために、既存のコネクタを削除したら、IISマネージャで 不正なXMLエラーが発生

- applicationHost.configファイルに日本語の文字列が含まれていたため、コネクタを削除した際に、それら文字が化けて 構文エラーを招いた
 - 自動でバックアップされた過去の設定ファイルを利用して、手動で applicationHost.config ファイルの文字化けを直す
 - 参考サイト
<http://cfassociates.samuraiz.co.jp/index.cfm/faq/cftech/cf-iis-xml-error/>

メールのエンコード



- JISエンコードでメールを送る際、あるいはJISエンコードのメールを受信する場合、メール本文にWindows固有の機種依存文字(Windows-31J や MS932)が含まれている場合、それに対応するJISエンコードの文字が無いいため文字化けを起こす
 - Javaの機能で対応
 - Java引数に「-Dsun.nio.cs.map=x-windows-iso2022jp/ISO-2022-JP」を追加すると、ISO-2022-JPへの文字コード変換時に機種依存文字を文字化けしないように変換するようになる
 - http://bugs.java.com/bugdatabase/view_bug.do;WuuT?bug_id=6173388

年をまたぐと条件分岐の動きがおかしくなった



■ cfifタグによる条件式で、比較演算子を使って値をチェック

- 文字列を必要としない値 (IS や GT などの比較演算子も含む) は数値か日付時刻オブジェクトに変換できるかどうかを確認され、変換できる場合は、対応する数値または日付時刻値 (数値として保管) に変換される
 - 型があいまいな式および文字列
http://help.adobe.com/ja_JP/ColdFusion/10.0/Developing/WSc3ff6d0ea77859461172e0811cbec22c24-7f46.html
- <cfif A is "1-1"> <cfif B eq "1,1"> のように引用符を使用している値は、日付時刻オブジェクトに変換可能な文字列と評価される
 - #dateFormat("1-1")# → 02-Jan-15 → 数値に変換
- 年をまたいで 変数 A や B の値が同じ "1-1" や "1,1" だった場合
 - 02-Jan-16 → 違う数字に変換

■ 対策

- 比較演算子は使わず compare() や comparenocase() 関数を使用する
- Javacast("String","1-1") 等

株式会社サムライズ

アドビソフトウェア事業部 ColdFusion ビジネスユニット

E-mail: adobe_software@samuraiz.co.jp

<http://www.samuraiz.co.jp/>

※サムライズのホームページでColdFusion情報を公開中

<http://www.samuraiz.co.jp/adobeproduct/coldfusion/index.html>

(ColdFusion カフェテリア) <http://forum.samuraiz.co.jp>

(ColdFusion Associate) <http://cfassociates.samuraiz.co.jp>

ColdFusion は、Adobe Systems Incorporated (アドビ システムズ社)

の米国ならびに他の国における登録商標または商標です。

その他、記載されている会社名や製品ブランド名は、各社の商標または登録商標です。